



熊谷恒子 略年譜

1893 年 1 月 28 日	京都・江馬章太郎の次女として生誕
1914 年	熊谷幸四郎と結婚。京都から東京へ転居
1928 年	川北桜嶼に師事
1930 年	尾上柴舟に師事
1931 年	岡山高蔭に師事
1933 年	泰東書道院展 東日・大毎賞受賞
1936 年	馬込に居を構える（当記念館）
1951 年	日本書道美術院理事に着任
1956 年	大東文化大学講師に着任 （1967 年教授に着任、1975 年退職）
1957 年	第一回現代書道二十人展に出品
1965 年	皇太子妃美智子殿下への書道ご進講を拝命
1980 年	勲四等宝冠章受章
1986 年 9 月 30 日	永眠（93 歳）

展示作品

【熊谷恒子愛用の書道具類】

- ①紫端溪雲龍硯（蓋・台付）
- ②端溪門字硯（蓋・台付）
- ③水鳥形水盂
- ④南瓜形書鎮（赤、緑）
- ⑤麦藁細工硯箱
- ⑥墨（好古、龍賓）
- ⑦筆（神品起龍、山馬筆、黒面相、清真）

【『土佐日記』に関連した作品資料】

- ①熊谷恒子《土佐日記》1933 年
- ②熊谷恒子《土佐日記》1933 年
- ③熊谷恒子《土佐日記（初巻）》1933 年
- ④熊谷恒子「土佐日記（草稿）」1933 年
- ⑤宇佐見喜三八『土佐日記新釋』
正文館書店発行、1932 年
- ⑥図録『第四回泰東書道院展覧会』
泰東書道院刊行、1933 年

熊谷恒子と『土佐日記』

熊谷恒子は、一九三三年に第四回泰東書道院展で《土佐日記（初巻）》を出品し、かな書の特選である東京日日・大阪毎日新聞社賞を受賞しました。

『土佐日記』は、紀貫之が土佐国で失った最愛の娘を偲び、女性を装ってかな書で綴られたともいわれており、恒子は「日記中には洒脱な諧謔あり、辛辣な皮肉ありまた感傷的なところもあつて、紀貫之の人間味が躍如としてあらはれ、且又非常に文藝的な作品」と『土佐日記』を評価しています。

恒子は『土佐日記』の全文を何度も練習した後に、冒頭部分を選択して《土佐日記（初巻）》を制作しました。

馬込アートギャラリー「日々を慈しむ、描く—安西啓明の日本画を中心に—」

会 期：5 月 23 日（土）～9 月 6 日（日）

会 場：大田区立馬込アートギャラリー 1 階（大田区南馬込 4-10-4）